

令和6年度学校評価報告書

北海道興部高等学校

1 本年度の重点目標

- (1) 基礎的・基本的な知識や技能を習得させ、思考力・判断力・表現力を育み、主体的・対話的で深い学びを実現する学習活動を通じて、社会で生きる力と生徒の個性の伸長に努める。
 (2) 自己形成を図り、地域貢献に努め、他を思いやる温かい心や豊かな人間性の育成に努める。
 (3) 主体的に未来を切り拓く目標を持ち、不屈の精神と健やかな身体をもってやり抜く力の育成に努める。

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

(1) 教育課程・学習指導	
ア 自己評価	- 基礎・基本の確実な定着を図るため、個に応じた学習指導の充実に努めている。 - 生徒の実態・進路ニーズを踏まえた教育課程を編成することができた。 - 生徒の学習意欲と主体的な取組を喚起する評価方法の改善に取り組んでいる。 - 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めている。 - 地域と連携した教育活動を行っている。
イ 学校関係者評価	- 少人数の利点を生かしていた教育課程の編成・実施の工夫がされています。 - 自己評価でAが増えていて良いです。改善の方策も適切であると思います。
ウ 改善方策	- 端末を活用した個に応じた指導を充実させ、基礎学力と学習習慣の定着を図る。 - 生徒による授業評価アンケートや公開授業を活用した授業改善を進める。 - メンター制度を活用した初任段階教諭の学習指導力の充実。 - 公営塾と連携した個別最適な学習活動を推進する。
(2) 進路指導	
ア 自己評価	- 計画的・系統的なキャリア教育を進められた。 - 総合的な探究の時間を通して生徒の自己理解を進めることができた。 - 生徒の進路実現のための校内連携が機能している。
イ 学校関係者評価	- 生徒個々の希望実現に努めていただいています。さらに実績のPRを強化されることを期待します。 - 少人数の強みを活かした指導に期待します。 - 進路結果や選択できる枠（指定校など）の情報を特に中学生にPRすべき。
ウ 改善方策	- 卒業後を見据えた3年間の系統化した進路指導の充実。 - 積極的な保護者面談等とおした家庭との連携強化。 - 面談や進路に係る取組など、生徒が主体的に進路を考える機会を早期に実施し、進路意識の向上を図る。 - 地域の教育力を生かした様々な活動の推進を図る。
(3) 生徒指導・特別活動	
ア 自己評価	- 生徒の尊厳を尊重し適切な態度や言葉遣いで対応している。 - いじめに対し組織的で迅速に対応する体制が整備され機能している。 - 生徒会活動や行事を通じて、自主性・主体性の育成を図っている。 - 特別な配慮が必要な生徒への対応が適切に行われている。
イ 学校関係者評価	多感な時期だと思うので、一人ひとりに寄り添った指導に期待します。
ウ 改善方策	- 社会的自立に向けた取組を教育活動全体で行う。 - 生徒面談や保健室等の情報を活用し、生徒理解に努める。 - 生徒会活動を中心とした自己有用感の醸成を図る。
(4) 健康・安全指導	
ア 自己評価	- 感染症対策を含む健康・安全に関する指導を適切に行った。 - 傾聴と受容という共通理解のもと、教育相談体制の確立に努めている。
イ 学校関係者評価	少人数の利点が活かされています。
ウ 改善方策	- 基本的な感染症対策を徹底する。 - Ai-GROW やQUテスト結果を活用し、生徒情報共有を図る。
(5) 組織運営	
ア 自己評価	- 定期的に分掌会議が開かれ、分掌内・分掌間の調整が行われている。 - 教職員は高い服務規律遵守意識を持っている。 - 教職員の連携協働意識は高い。
イ 学校関係者評価	様々なことに真摯に取り組まれていることに敬服します。
ウ 改善方策	- 学校運営においてPDCAサイクルを活用し、成果と課題を明らかにし改善を図る。 - 分掌や学年内で進行管理を確認する体制を作り、情報を共有し、作業の効率化を図る。 - 危機管理マニュアルの形骸化を回避し必要に応じた見直し。
(6) 保護者・地域住民との連携	
ア 自己評価	- 保護者や地域住民の意見を聴く機会も設け、改善に役立てている。 - 学校運営協議会と連携し、地域と協働した学校づくりを図っている。 - 中学校との連携をより一層進める必要がある。
イ 学校関係者評価	地域と共にある学校づくりを推進されていることに敬服します。
ウ 改善方策	- 保護者や地域住民の声を聞く機会の設定を検討する。 - 学校運営協議会と教職員の連携を強化し、共通理解を図る。 - 公開授業や出前授業など教科単位での中学校との連携を目指す。